



北海道有林野 整備管理計画（日高管理区）の概要

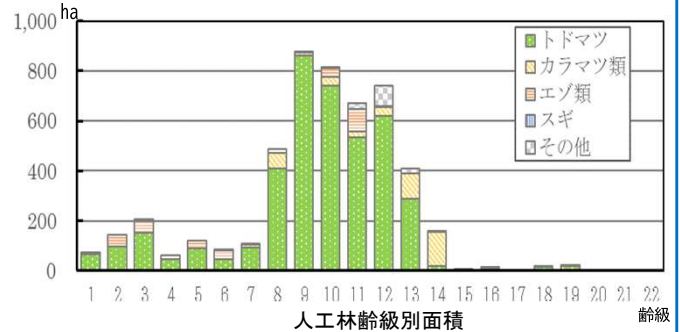
管理区の概要

- ・当管理区は、北海道の中央南西部、日高地方の東部に位置し、浦河町、様似町、えりも町、新冠町の4町に所在しています。
- ・管理区内には「アポイ岳」や「豊似湖」などのみどころがあり、登山や森林レクリエーションにも利用されています。また、管理区の一部が、日本一の自然公園面積を誇る「日高山脈襟裳国定公園」に指定されていることなどから、野生動植物の生息環境や自然景観の保全を図るため、アポイ岳周辺と日高山脈沿いの森林を生物多様性保護地域に設定しています。
- ・森林面積は、約48.3千haであり、人工林が約5.0千ha(10%)、天然林が約43.1千ha(89%)、未立木地などが約0.2千ha(1%)となっています。人工林面積の内訳は、トドマツが4.1千haと約8割を占めています。



多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・当管理区では、約5千haの人工林のうち、82%がトドマツ、8%がカラマツ類で構成され、特にトドマツ人工林が利用期を迎えていることから、路網状況を考慮し、施業箇所を集約したうえで、主伐及び間伐を効果的に実施します。
- ・希少野生動植物の生息環境に配慮した森林整備を実施するため、専門家などとの情報交換や助言を得ながら整備を進めます。
- ・天然林は、過去の伐採により中小径木が主体の森林となっているほか、自然環境への配慮が求められていることなどから、当面、通常の森林施業は行わず、自然の推移に委ねるなど将来へ向けて保存・継承していくこととしています。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】
森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	4,627	4,422
育成複層林	2,881	3,086
天然生林	40,879	40,879

○計画量

【伐採材積】 (単位:千m3)			【更新面積】 (単位:ha)			【路網開設】 (単位:km)		
区分	前期	後期	区分	前期	後期	区分	前期	後期
主伐	42.5	56.0	人工造林	138 (149)	187 (203)	林道	-	-
間伐	50.6	48.7	天然更新	- (-)	- (-)	林業専用道	2.6	-

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・緩傾斜地での機械地拵の実施やコンテナ苗の活用により施業の低コスト化・省力化を図ります。
- ・一般民有林の森林整備が図られるよう、森林所有者と協定等を締結し、林業専用道等の共同使用や立木販売の共同実施など共同施業・共同出荷について取り組みます。
- ・機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的な事業量の確保及び計画的な発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業者と協定を締結し、複数年にわたって連携して造林や保育、伐採などの森林整備に取り組みます。
- ・道有林の木材を伐採し製材工場等に供給する事業者が、適期に適量の原木を製材工場等に供給できるよう、立木で販売することとし、地域の木材需給の動向を踏まえ、適切に販売するよう努めます。
- ・森林生態系保全に配慮した森林施業を推進するため、有識者との情報共有や研修会等を開催するなど、林業事業体現場技術者と若手職員の育成を図ります。
- ・木育マイスターなどによる森林体験学習や小中学校の林業現場見学等の場として、積極的に提供を行います。
- ・管内には、白い恋人の湖としても知られる「豊似湖」やユネスコ世界ジオパークに認定された「アポイ岳」といった景勝地、日本一の自然公園面積を誇る「日高山脈襟裳国定公園」など数多くの見どころがあることから、ホームページやSNSを活用した情報発信を進め、地域における観光資源としての活用を図るなど、地域振興に貢献します。



○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】
道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

20千m ³ /年 (平成29～令和2年度 までの実績平均)	➡	21千m ³ (令和13年度)
---	---	-------------------------------